

# 人間ドック健診施設機能評価(Ver.4) 総合評価

**施設名：医療法人財団慈生会野村病院予防医学センター**

## 概要

野村病院予防医学センターは、東京都三鷹市にある医療法人財団慈生会野村病院の健診部門である。1960年に人間ドックを開始し国内でも有数の歴史を持つ。予防医学センターは1976年に開設され、病院併設ながら外来とはほぼ独立した形で、人間ドックをはじめとした各種健診を実施している。バス等の公共交通機関や駐車場が整備され、交通アクセスはよい。

東京23区西部や多摩地区を中心にして広域から受診があり、年間の受診者数は、一日ドック約15,000人、二日ドック約100人、その他の健診が約10,700人、さらに検診車による巡回検診を約12,000人実施している。

2004年に初回の認定を受け、今回が3回目の更新審査である。

## 第1領域 理念達成に向けた組織運営

病院とは別に予防医学センター（以下センター）の理念と基本方針が定められており、年2回の見直しが継続されている。

個人情報保護に向けては、問診票送付時に個人情報保護法方針が同封されている他、年2回の職員研修の実施等適切である。

就業規則等各種規程は、法人で体系的に一括管理されており見直しも含め適切であるが、36協定等一部に提出方法の不備があるので確認が必要である。また、職業倫理については就業規則内で明文化されているものの相談窓口の周知方法が明確ではなく、今後の課題である。

中期経営計画・年度事業計画・予算書等はすべてセンター単独で作成され、健診部門の収支や目標が明確にされている。また、変化の激しい昨今の健診情勢に迅速に対応すべく短い期間で評価や見直しが行なわれている。計画的な運営が高い水準で継続されており、受診者や保険者のニーズに迅速かつきめ細かく対応しようとする姿勢は高く評価できる。

健診専任医師は人間ドック健診専門医を取得している。スタッフは病院兼務職員も多いが、各部署間の連携がよくチーム医療が実践されている。事務職の「ドクターズアシスタント」と名付けられたグループは、カルテの準備や結果説明時のPC操作等で医師をサポートする業務を行い、結果説明までを含む健診の所要時間短縮に効果をあげている。

教育体制については、全職員・全職種に対応した計画的な教育体制が充実した形で構築されており、質の高い健診の提供に繋がっていて高く評価したい。

医療安全管理体制については、委員会が設置されマニュアルも整備されている。インシデント等の事例が検討された後に確実に対策が講じられ、その実効性を確認するシステムまで整えられている。感染管理体制と防火防災対策は適切である。

情報の管理体制は、サーバー室へのICカードによる入退室管理やパスワードによる健診システムへのアクセス制限等適切であるが、トラブル発生時のマニュアルがないので今後の課題である。

センターの玄関はバリアフリーではないが、病院側の玄関から受付までは車い

すでに移動が可能である。施設内は車いすの利用が可能であり、障害を持つ方への対応マニュアルに基づき受け入れの実績もある。

外国人受診者については、院内で受け入れ条件が定められ利用事業所等にも周知されている。継続的なフォローアップが可能であることを特に重視している。昨年は約 60 人が受診している。

## 第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約受付の業務は、マニュアルに沿って実施されている。収受業務は担当者と責任者によるダブルチェックが確実になされており、記録も含めて適切である。また、会計処理は法人の経理課が担当し、売上や未収金等についての実績が毎月法人の経営管理会議等に報告され検討が行われている。

施設や健診に関する情報は、ホームページや事前に送付される書類によって、受診者へ十分に提供されている。また、種々の問い合わせへの対応方法も、マニュアルとしてまとめられており、一部はホームページ上に FAQ として公表されている。

施設内は受診者数に見合ったスペースが確保されており、一部医療面接ブースを除き、各検査室や面談室は個室化され、プライバシーへも十分配慮されている。なお、病院受診者とは超音波・内視鏡・CT・MRI 検査等が併用となるが、接する動線は最小限であり、検査する時間を分ける等の配慮も認められる。

受付は時間差で行われ、混雑を回避する工夫がされている。

受診当日は保健師・看護師による医療面接から開始され、体調を含めた多くの情報がマニュアルに則って収集されている。さらに、得られた情報はシステム内へ入力することにより共有され、その後の質の高い健診に寄与している。また、内視鏡と MRI 検査では事前に説明書が渡されており、内視鏡検査では署名による同意を得ている。なお、病院併設型であり、急変発生時のコール体制も整備され、定期的な訓練も行われている。

検体・生理・画像検査は精度管理責任者を置き、業務マニュアルに基づいて適切に運用されている。また、外部精度管理サーベイへも定期的に参加し、良好な成績を得ている。さらに、検査項目には日本人間ドック学会が提示する基本検査項目がすべて含まれており、判定区分は日本人間ドック学会判定区分に準じている。

医師による結果説明（面接）は、放射線科専門医による一次読影が終了した画像診断結果も含めて、93.6%とほぼ全受診者に対して行われている。また、面接時には高精細ビューワーで過去画像を見ながら説明することが可能である。心電図は面接医が判定し、必要に応じて専門医へコンサルトする体制で、眼底も後日に眼科専門医が再度判定している。

保健指導実施施設に認定されており、保健スタッフの体制・マニュアルは整い、実際の流れも業務手順に基づき標準化されている。実施率は約 50%で内容は生活・栄養・運動・禁煙・減酒などの各種指導や、受診勧奨・医療機関紹介など多岐にわたっている。さらに、実施記録などの情報は、すべてシステム内に入力され、次年度以降に活用されている点も優れている。

### 第3領域 継続的な質改善の取り組み

ご意見箱があり、集計と検討が行われているが、投書数や回収のペースは十分とはいえない。受診者の要望をより多く集めるしくみづくりに向けて、設置場所や記入様式の変更、また定期的なアンケート活動の実施や受診者へのフィードバック方法等について検討を期待したい。

フォローアップについては、マニュアルが整備され充実した形でしくみとして構築されている。要精検率は、すべての項目で 10%未滿、精検実施率は平均で 82.8%と優れている。また、紹介状を当日に手渡しすることで受診を促す等、受診行動に繋げるための工夫が続けられていて評価できる。なお、追跡検査のフォローアップについては、糖尿病関連以外の項目についても積極的な取り組みを期待する。野村病院や近隣の大学病院との連携は十分構築されている。

各種統計は継続的に行われている。各種学会への調査協力をはじめ、日本人間ドック学会学術大会では、事務職も含めて毎年複数の発表が行われている。

受診後に提供される食事は、管理栄養士が季節毎にメニューを考案している。カロリーや塩分・野菜量等を詳しく説明したリーフレットを食事と共に提供し生活改善に向けた「食育」が実践されている。

会員制健康倶楽部があり、年 2 回の医事講演や人間ドックの割引受診サービス等が提供されている。健保等の人間ドック助成制度が適用されなくなる年代を主なターゲットにしており、継続的な健康管理に役立てられている。

近年中に予定されている電子カルテの導入にあわせて「慈生会版データヘルス」と名付けた統計システムの開始をすすめている。保険者毎のデータ比較や外来と健診のデータ連係等により、個人毎・団体毎で、よりきめ細かい指導サポートが可能となる計画であり、今後に期待したい。

定期的に環境分析（SWOT 分析、クロス分析）が行われ、その結果を基に業務改善に取り組んでいる。現状分析を改善に繋げるしくみが構築されており評価したい。

前回の指摘事項については、計画的に改善の取り組みが続けられており、フォローアップ体制の充実をはじめ、ほぼすべての項目で一定の改善成果を確認できた。

### 総括

地域の健康づくり拠点をめし、健診の質とスピードのバランスについて検討を続けている。人間ドック健診施設としての方向性についても、最新の情勢にあわせて常に見直しが行われており、その方針が職員にも浸透し体現できている。機能評価受審を改善に繋げるしくみができていることとあわせて高く評価したい。

フォローアップのシステムは、高い水準で構築されており、医療面接・結果説明・保健指導などとも連携して緻密な情報の共有が可能となっている。引きつづきの積極的な取り組みを期待する。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定（更新）に値すると判断する。

審査日 2018 年 4 月 12 日

認定承認日 2019 年 4 月 1 日